

鹿野の人口減少は止まりません…、しかし今の悪い流れは変えられます！

そのためには支所跡地を戦略的に活用する事、持続的に人が集まる町を実現する中核にする事

=では…どうするか？ 鹿野には絶対的な資源があります=

発行/2023-10-01

1つ目は自然 2つ目は水資源 3つ目は都市と鹿野を繋げる高速道路です。

総合支所跡地が観光交流拠点として整備される事が決まった今、この3つを効果的に融合せることで、鹿野の未来を変える千載一遇のチャンスが来しました。

我々は、鹿野の3つの強みを活かすためには観光交流拠点に“水を主役にした木漏れ日カフェ”（飲食）の建設が不可欠だと考えます。

都会の人々が高速道路でアクセスし、自然や水に癒やされながらロマンを感じる場所、都会と山間部を繋ぐコミュニティの拠点として都会へ強いメッセージを発信できます。

【目 的】

鹿野の大事な水資源（清流通りを流れる水）は、わざわざ遠くから引き込む必要がありません。この水を活用しない手があるでしょうか。この貴重な水資源を徹底的に磨けば、何処にもない唯一無二の観光資源となります。観光振興とは効果を出す事が最も重要です。偉大な先人・岩崎想左衛門重友が私財を投げ打って山をくり貫き鹿野を水で救ったように、水資源で再び鹿野の過疎を救うことができるはずで。km級の間山から流れる水は錦川源流としてやがて錦帯橋へと流れ出ます。この水資源は決定的な鹿野の武器になります。米のブランド化も夢ではありません。また、鹿野にカフェ等の素敵な店舗を増やす呼び水にもなります。（小さなスペースに欲張ってさまざまな物を詰め込めば、逆に魅力が半減し焦点もボケます。人を呼び込むためには観光交流拠点からの強いメッセージと独自性が必要です）



<鹿野総合支所跡地の活用案>

【具体的な構想】

- (1) 清流通りに流れる水を総合支所跡地の中央を貫くように引き込み、「木漏れ日の森」を建設。（「木漏れ日の森」は鹿野全体の表紙の役割を果たし、鹿野地域内のスキズキタ場所、スキズキタ人、スキズキタ活動団体がより活性化する拠点）
- (2) 限りなく自然に近いメドウガーデン（庭園デザイナー石原和幸）のような森に「木の香る素敵なカフェ」（飲食）を建設、人を集めるには飲食は絶対不可欠。
- (3) 心地よいせせらぎの音が響く水路。（漢陽寺の水路で心地よい水の音は実証済み。都会人にとって水の流れる音やきらめきは、何時までも居たくなる心に染みる情景。人は感動すれば再び友を連れて何度も訪れる。その連鎖の代表格が黒川温泉）
- (4) 足水に癒やされる工夫、引き込む水路に自然な曲線と強弱、水際に似合う山野草の花の配置など。鹿野にしかない空間を人々に提供。（都会にはない水の癒やし、鹿野だけの心地よい時間の流れの…）
- (5) 野外コンサート♪が行える木製デッキの設置。都会と田舎のコミュニティの森として文化的な役割を果たす。（既にオープンガーデン開催期間中に8組・6カ所で野外コンサートを3年連続開催。今では隠れ家マルシェ期間中も野外コンサートを定期的実施。将来は鹿野全体で野外コンサートの聖地を目指す）
- (6) 夏の夜は蛍が飛び交う仕掛け。鹿野は県内屈指の蛍の里です。（鹿野の強みを融合させ、より遠くへ発信）
- (7) 都会にはない山野草の花々を園内に植栽し、鹿野の特徴をより誇張して発信。（既に山野草のエキは年間1万人を集客しており、内17%が県外からの来園者。この鹿野の潜在的な可能性を育て広めるのが観光交流拠点の役割です）

=何故カフェ（飲食）に拘るのか？=

食事やお茶をする場所が無ければ観光振興として魅力は半減し、ただの通過点に終わります。静まり返る町周辺に再び人々を回遊させ、街中の活気を蘇らせたい。鹿野では高齢を理由に飲食店が次々と閉店しています。「木の香るカフェ」の併設は鹿野に新たなカフェ（飲食）起業家を呼び込む、呼び水の役割を兼ねています。私達は鹿野の魅力を高め、起業し易い環境を整える強い目的で12年もの活動を進め、旧大潮小校舎活用もその一環です。魅力的なカフェ（飲食）が増えれば、鹿野の魅力は倍増し、滞留時間が増え、経済効果が高まり、高速道路を使った広島や福岡からの安定した集客も現実味が増します。真の観光振興とは持続可能な仕組みづくりです。

